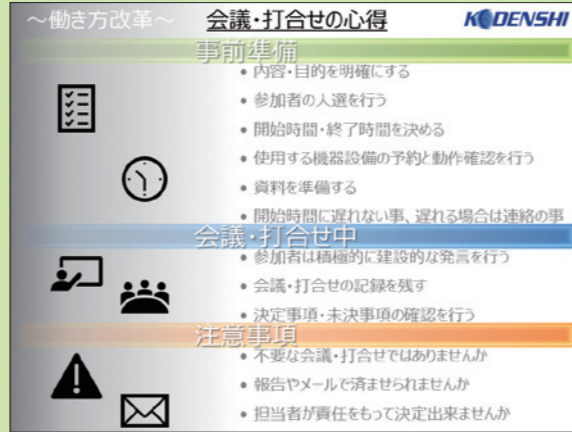


会議の時間短縮や外出先でも申請・承認可能な仕組の導入により、残業を削減



取組内容

- ・会議を時間内に収めることを意識するために、キッチンタイマーを利用し、会議終了予定時刻の10分前に鳴らすようにしています。また、事前準備を心がけるよう、啓蒙ポスターを掲示しています。
- ・スマートフォンやクラウド上での承認ソフトを導入するとともに、スマートフォンを役員及び営業担当の全員に支給し、外出先でも業務上の申請・承認ができるようにしています。
- ・月に一度、社員の残業時間をチェックし、残業時間が多い社員(30時間超)には理由をヒアリングして残業が多い原因を把握しています。上長指導の下、業務繁忙期は助け合って乗り切るよう配慮しています。
- ・少数部員制(2~7名のチーム制)を採用し、上長が部員に対してきめ細やかにサポートしています。
- ・匿名で意見を投函してもらおう「みなさまの声」箱を設置し、社員の意見を吸い上げながら、導入する取組やツールについて検討しています。



取組による効果

- ・入社1~2年目の営業担当の平均残業時間(2017年度):2014年度比で約60%削減。
- ・管理部門の平均残業時間(2017年度):2015年度比で約59%削減。
- ・社長が外出中でも速やかに決裁が行われるため、営業担当だけではなく、全社員の業務効率が上がっています。
- ・会社に戻らないと申請できなかった手続きが外出先でも行えるようになったことで、移動時間の短縮や残業時間の削減につながりました。
- ・少数部員制にしていることにより、コミュニケーションが密にとりやすい環境が整っています。業務繁忙期が予想できるときは、前もって声掛けをするなど、社員の自律性を養うことにつながっています。

〈従業員の声〉

- ・カーシェアリング導入によって、遠方の顧客を訪問する際、近くの駅まで電車移動することができるようになり、社用車での移動だけよりも移動時間が大幅に軽減しました。帰宅時間が早くなり、家族と過ごす時間も増えています
- ・近隣に飲食店が少なく、以前はランチタイムにゆっくりできなかったのですが、会社が社員の健康に配慮してくれた結果、会社敷地内の駐車場に日替わりでランチカーが来るようになりました。メニューが豊富で飽きることもなく、時間も有意義に使えるため、ランチタイムが楽しみになりました。

※このリーフレットは、東京ライフ・ワーク・バランス認定企業の取組紹介のために、東京都が発行したものです。
 ※東京都では、誰もが人生・生活をもっと大切にすべきであると考え、ワークライフバランスの「ワーク」と「ライフ」をあえて逆にして「ライフ・ワーク・バランス」を推進しています。
 ただし、このリーフレットにおいては、認定企業が使用する文言についてはワークライフバランスという文言をそのまま使用しています。

PERFORMANCE
効率よくはたらく

FLEXIBILITY
柔軟にはたらく



コーデンシTK株式会社

多様なツールを組み合わせ、
長時間労働を削減

DIVERSIFICATION
それぞれにはたらく

～多様なツールを組み合わせ、長時間労働を削減～



コーデンシTK株式会社

▼会社概要

代表者名	代表取締役 袖長 修治
創立(創業)	1972年
所在地	渋谷区南平台町3-1 コーデンシTK渋谷ビル
TEL/FAX	03-6455-0280/ 03-3461-1566
従業員数	43名(うち正社員43名)
URL	http://www.kodenshi-tk.co.jp/



事業内容

- 電子部品、光学部品、電子機器及び光学機器の販売
- 上記に付帯、または関連する一切の業務

▼目的・理念

社員のアイデアを実行する会社

- ・社員の提案したアイデアを実行し成功すると、社員の意欲向上・満足度向上につながります。「更にアイデアを」と、新たな価値を創造する文化につながります。当然のごとく「働き方」「時間の使い方」にも影響していきます。
- ・また、社員の満足度が高まると良い会社となり、良い会社となることが顧客満足度を向上させることにつながります。
- ・つまり、社員のアイデアを実行していくことで、社員のライフ・ワーク・バランスをはじめ、会社を取り巻く環境の全てにおいて良い循環を生み出していくことにつながると考えています。

〈代表者からのメッセージ〉

弊社では、簡単な取組を複数・継続的に取り入れることにより、社内文化水準の向上を達成しています。また、社員の「気持ち」を重要視しています。「できる」と思ったものは、できます。嫌々やるよりも、楽しんで仕事をしてもらいたい。多少の困難は、前向きに乗り越えてもらいたい。社員の「やる気・自主性」を重要視しながらも、業務の効率化・標準化を推進することで長時間労働の削減を実現し、いきいきと楽しく仕事に取り組める環境づくりを進めています。



▼取組の経緯・背景

「何でもやってみる」ことをモットーに様々な取組を実行

- ・取組を始める前は、残業について「自己申告制」となっており、基本的には社員に任せ切りでした。上限時間も決めておらず、管理体制もできていませんでした。
- ・残業時間が多くなる傾向は、特に入社歴が浅い社員に顕著に現れていました。業務の進捗についてストレスが蓄積していく上に、長時間残業が常態化していました。
- ・こうした中、2015年の7月、社員からの提言により「業務効率化(残業削減)プロジェクト」が発足しました。役員2名、社員5名が参加して、問題点を共有した上で課題抽出と解決策の検討を行いました。無駄な作業の簡潔化、利便性のアップ、会議の効率的運営といった導入しやすい取組や、申請者が悩むことなく申請できる申請フォーマットの作成、クラウド上での申請・承認ソフトといったツールの導入など、様々な取組を行いました。
- ・プロジェクト期間は約半年間でしたが、その成功体験が功を奏し、その後は「何でもやってみる」ことをモットーに様々なことに取り組んでいます。



取組紹介 1

サテライトオフィス設置や出張先でのカーシェアリング利用により、移動時間短縮!



取組内容

- ・営業担当は神奈川県方面への出張が多いことから、厚木にサテライトオフィスを開設しました。本社(渋谷)に出勤することなく、サテライトオフィスに直行直帰し、顧客訪問することを可能にしました。
- ・直行直帰の実現を促進するため、カーシェアリングを導入しました。訪問する顧客の近くの駅まで電車で移動する間に予約を完了し、現地での手続きをすることなく乗車しています。
- ・これらを利用しながら柔軟に働けるようにするため、営業担当の全社員にノートパソコンとスマートフォンを支給し、モバイルワーク可能な環境を整えています。



取組による 効果

- ・サテライトオフィス設置やカーシェアリング導入前は、社有車で移動して夕方帰社する際に渋滞に巻き込まれる、神奈川県在住の者が神奈川県で仕事して渋谷の本社に戻って、また神奈川の自宅に帰る、というようなロスがありました。これらの導入後は、直行直帰が可能になり営業担当の移動時間が大きく短縮されました。また、社有車の駐車場代や管理費などの維持費の削減にもつながりました。
- ・カーシェアリングについては、免許期限の管理もサービス提供者に任せられるため、総務部門の業務負担や有効期限切れのリスクを軽減できています。